

戸塚宿 藤沢宿より2里
本陣2、脇本陣3、問屋3、旅籠75。町並み東西20町余。
最初から置かれた宿でなく保土ヶ谷から藤沢まで4里余と長く、その間山路が多く旅人の難渋の所であったので寛永年間になって宿が置かれた。
江戸から10里、小田原へ10里、どちらへもの1日の工程であったため宿泊客多く賑わったという。旧戸塚宿だけでは対応できなかったため延宝4年(1676)矢部宿、吉田元町宿に伝馬業務が許され戸塚三カ宿といわれた。



護良親王首洗い井戸碑

南北朝、後醍醐天皇の王子は鎌倉に幽閉されていた、足利義直に殺される。側女が首を盗み出しこまで運ぶ。齊藤与三郎歌碑
"みしるしを洗いし井戸とつたへきく杉はかれても名はのこるらん"



富塚八幡宮 祭神 富属彦命(トミツヒコ)
"前九年の役"源頼義、義家父子が奥州へ向かう途次ここで露営した折、応神天皇、富属彦命の神託を受けその加護により戦功を立てることができたので延久4年(1072)社殿を建て祭神を祀った。
境内にある塚は前方後円墳。祭神の富属彦命の古墳と社伝。命は相模国造弟武彦命二世の孫とされている。富塚から戸塚の地名になつと云われる。

[弥次・喜多]
道中飯盛り女がうるさいから親子といふことにする。程なく戸塚。旅籠が満員、泊まる場所なし宿に大奉丸の乞食がいた。
"とめざるは宿を疋氣としられたり 大きなたまの名ある戸塚に"
開店したばかりの宿に泊まる。親子ということのため寂しくねる。
"一筋に親子とおもふおんなより 只二すじの銭まうけせり"

内田本陣跡
沢辺本陣跡
海蔵院
八坂神社
富塚八幡宮
境内に芭蕉句碑
高嶋橋
戸塚警察署 上方見付跡



清源院 長林寺 (今は西林寺)
源頼朝の家臣安藤藤九郎の一族長林氏が草創。戦国時代に途絶えるが元和6年(1620)に徳川家康の愛妾、お万の方の創建。家康から賜った後白河法皇勅願の歯吹阿弥陀如来を本尊とする。裏山の墓地に、安政5年(1858)に建てられたお万の方の石碑があるという。
山門左に 心中句碑
文久3年(1863)戸塚3丁目大島屋亦三郎の倅、清三郎(19才)と同町1丁目伊勢屋清左衛門のお抱え女郎ヤマ(16才)とが清源院の井戸に飛び込み心中した事件。清源院22世躍上人が建てた句碑。
"井にうかぶつがひの果てや秋の蝶"
境内に芭蕉句碑
"世の人の見つけぬ花や軒のくり" はせを

[弥次・喜多] 品濃坂の國境に来て
"玉くしげふたつにわかる國境 所かはればしなの坂より"

権太坂名前のおこり
旅人が土地の老人に坂の名前を訊いたところ老人は耳が遠かった自分の名前を答えたと言う。



境木地蔵
ここは相模国と武蔵国の国境。地蔵堂がある。鎌倉腰越海岸に流れ着いた像を、お告げで江戸に運ぶ途中ここで動かなくなったので祀ったという。ここは立場。牡丹餅が名物。若林家に餅をついた臼が残るといふ。庭内に明治天皇「御東幸御小休所跡」碑。



萩原代官屋敷道場跡 (谷間にある)
旗本杉浦氏の代官を務めた萩原家。幕末の当主萩原行篤は直心影流の達人。近藤勇も試合に訪れたことがあるという。



戸塚宿一里塚跡標識